

KWANSEI GAKUIN SCHOOL OF THEOLOGY

 関西学院大学

神学部報

No.124 2024.11

2024年度の融合科目「Mission in Dialogue B」は8月1日(木)から7日(水)の日程で、韓国・メソジスト神学大学(監理教神学大学校・MTU)の学生10名、教員1名を西宮上ヶ原キャンパスに迎え、関学神学部からは9名の履修者が参加しました。講義は本学部の中道教授、岩野教授、水野教授、MTUのソ・ヨハン准教授が担当しました。フィールドワークでは、在日大韓基督教会大阪北部教会の趙永哲牧師、神戸の賀川記念館の同窓である小野歩職員にご協力いただきました。また期間中の日曜日は日本基督教団神戸栄光教会の礼拝に出席し、佐藤成美牧師から同教会についてのレクチャーも賜りました。ご協力いただいた皆さまにこの場を借りて心より感謝申し上げます。

(→学生による報告はP.2)



フィールドワーク 在日大韓基督教会 大阪教会にて

Instagram



HCTHEOLOGICA

発行 関西学院大学神学部広報委員会
〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155
電話 (0798) 54-6200 FAX (0798) 51-0936
https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/

Facebook



夏期実習報告 2024

夏期派遣神学生

<期間>8月3日(土)~8月12日(月)

<場所>日本基督教団 益田教会

酒井 晋弥 【大学院】キリスト教伝道者コース

8月3日(土)から12日(月)までの10日間、私は島根県の益田教会で夏期派遣神学生として実習の機会をいただきました。実習期間中は、毎朝、午前7時に牧師の元正章先生と一緒に教会の鐘をならし、礼拝堂で祈りをささげて、教会での1日がはじまりました。毎日を祈りで始めることの大切さを改めて覚えることができました。3日目の朝からは、毎朝午前5時に起床し、午前6時くらいから礼拝堂のオルガンで何曲か讃美歌を奏していました。いつも30分だけでしたが、次の日曜日の礼拝に択んでおいた讃美歌を大切に奏きました。益田教会では、週報の作成、教会誌の作成などを元先生とともに行いました。また、元先生は信徒さん宅の訪問、西中国教区の牧師会や、他教派を含む地域の

教会などへの訪問に、すべて随行させていただきました。その他にも、いくつかの教会を訪問させていただきましたが、訪問先の中でもっとも印象に残っているのは、8月6日(火)午後到大坪羊子牧師(日本イエス・キリスト教団川本教会)の案内で訪問した沢谷教会です。沢谷教会では現在礼拝は行われていませんが、いつでも礼拝できるほど美しく保たれた礼拝堂は、いるだけでゆたかな気持ちになることができるようなとても素晴らしいものでした。

益田教会の皆さま、元正章先生、貴重な学びの機会を与えてくださり、ありがとうございます。ありがとうございました。



益田教会の皆さんと
(酒井さんは前列左から5番目)

臨床牧会実習

<事前講義>8月20日(火) 於 上ヶ原キャンパス

<実習>8月26日(月)~8月30日(金) 於 大阪暁明館病院

<事後講義>9月2日(月) 於 上ヶ原キャンパス

全 容佑 【大学院】キリスト教伝道者コース



患者さんの視線を体験する下川さんと全さん

この度、夏季集中講義として「臨床牧会実習」を受講しました。「臨床牧会実習」では、指導教員、スーパーバイザー、緩和ケア医療従事者による講義、緩和ケア病棟に入院しておられる患者さまへの訪問、対話の逐語録の作成と分析、そして礼拝の司会と説教等が設けられており、貴重な経験をすることができました。自分が今回の実習においてゴールとして設定した点は二つです。一つ目は父との死別による喪失感と向き合えるようになること、二つ目は牧会に必要なとされる心得を持てるようになることでした。父の死後、自分の中にはいつも「なぜ?」という疑問がありましたが、患者さまとの交わりや先生方、仲間との逐語分析の過程を通して、過去の自分自身や出来事、感情と対話をし、その意味を新たに理解することができました。そして、牧会については教会内で行うものという狭い認識がありましたが、今回の実習を通して、自分が出会う人々に神が出会わせてくださったという認識をすることで、牧会の領域を広く捉えることができました。さらに、御言葉や祈りを通じて、そこに共におられる神を発見することの大切さについて学び、黙想することができました。先生方、患者さま、お世話になった大阪暁明館病院のすべての方に心より感謝いたします。これから自分に与えられている牧会の道を神と共に歩みながら、より深く学びつつ、進んでいきたいと願います。

下川 泉 【大学院】キリスト教伝道者コース



この夏、私は集中講義である「臨床牧会実習」を履修いたしました。実習では緩和ケア病棟におられる患者さんの訪問や分析、院内の礼拝担当を行いました。患者さんとの出会いや病院礼拝など普通では経験できない貴重な時間を過ごさせていただきました。中でも緩和ケア病棟におられる患者さんへの訪問を通して牧会とは何か、また「一緒にいる」とはどういうことなのかを考えさせられました。まだ確実な答えは出ておらず、これからも考え続けていきたいことなのですが、イエス様が各地で人々に出会われた時の姿が私の中で大きなヒントになりました。相手を患者さんとしてではなく自分の隣人として見てそばにいたい、私の力に頼るのではなく、その背後にいる神様に身を委ねることがとても大切なのだと現段階では考えています。また牧会をより広い視点で考えることも教えられました。実習の中では、自分自身や自身の信仰について見つめ直す機会が何度もありました。その過程は私にとっては非常に苦しく辛いものでしたが、生きていくために、また、キリスト者としてこの世に出ていくために欠かせないことだったと思います。この実習の中で本当に様々なことがあり、乗り越えられるか不安でしたが、神様がいてくださったから乗り越えられたのだと確信しています。神様に感謝すると共に、病院の方々や先生方に感謝いたします。

Mission in Dialogue B 報告

キリスト教思想・文化コース2年 堂見 英利奈

8月1日(月)から7日(水)にかけて開催された「Mission in Dialogue B」では、初日に中道基夫教授とソ・ヨハン准教授の講義を受け、日本の教会における現状と課題、韓国における文化と宗教の密接な関わりについて学びました。続く3日間ではフィールドワークとして、在日大韓基督教会大阪北部教会や四天王寺などへ行きました。大阪北部教会では、教会の設立に至るまでの歴史や教会内の取り組みについて学び、また、四天王寺では建築様式や最古の寺院が建設されるまでの歴史について学びました。プログラムを通して、教会が行う取り組みによってキリストの愛を伝え、平和を祈ることの重要性を感じま



在日大韓基督教会 大阪北部教会

ました。また、韓国の学生たちとの交流では、韓国の観光地や食文化などについて知ることが出来たため、韓国への関心が高まり、貴重な時間を過ごすことができました。

キリスト教思想・文化コース3年 青山 莞太郎

8月初旬の非常に厳しい暑さの中で、監理教神学大学の皆さんとともに1週間を過ごしました。毎日のように夜遅くまで一緒に食事をとるなどしながら自身の研究テーマや信仰についても語り合いました。監理教神学大学の学生の中にはメソジスト派の教会で日本宣教部という教会内の組織に所属し、日本のキリスト教神学に対し強い関心を抱き、今後日本で学ぶ意欲を持っている学生がいました。今回の隣国の神学生同士の交流は、新たな刺激を双方にもたらしたことでしょう。私にとっては、昨年の韓国ソウルでの「Mission in Dialogue A」に参加したことがその後の転機になりましたし、今回の受講も貴重な経験になりました。なにしろ素晴らしい学びを得られる機会ですから、今後も熱意ある学生たちが参加することでこのプログラムを盛り上げてほしいと願っています。



青山さんは中央

人権研修会 「自分の“性”を考える～神様が教えてくれたこと～」

藤井 航 氏(関西学院高等部非常勤講師)

2024年5月21日 於:関学会館レセプションホール



神学部を卒業して11年が経った今、人権研修会でこの度お話しさせていただくことになり、改めて光栄なことと感じています。

昨今では「ジェンダー」「セクシュアリティ」また「LGBTQ+」という言葉は多くの人が知る言葉となってきました。しかし、様々な反応があるのも事実で、「同性婚」「戸籍の性別変更」等議論に上がる話題には否定的な意見もあります。また宗教を通して「性」を考えた時、その観点から肯定できないとする人や聖書の教えを基に「罪」であると考えている人もいます。実は私自身もかつてそのように考え、性別違和を感じる自分に対して否定的な目を向け、「自分は神様に愛されていない、神様が作ったのではなくて悪魔によって作られた」と本気で思い悩み、生きる希望を持ってませんでした。自分がトランスジェンダーであると受け入れてからも、女性で生まれた自分を憎み、もっていきようのない怒りと共に生きるしかありませんでした。ですが、そんな私は今、手術をし、戸籍を変え生きています。そして何よりも男性や女性、トランスジェンダーである事以前に「自分だけの性」があり、これは神様によって与えられたと信じていることができます。な

ぜそれができているのか。それは学生時代における神学部での出会い、繋がりがあからだと思っています。当時、LGBTQという言葉すらまだ浸透していなかった時代に、故榎本てる子准教授をはじめ、多くの人たちが私の思いを聴き、寄り添い、共に考え、共に泣き、私を自然に受け入れてくださいました。その経験から私はありのままの自分を好きになることができています。私たちは自分と他人との違いを見た時に、どうしても受け入れられないと感じることもあると思います。でも「目の前にいるその人」の痛みや喜びに触れることで、「その人」の視点を感じることもや知ることがあると思うのです。まさに神学部にあの時、目の前にいる私を知ろうとしてくれた多くの「人」たちによって私は生きる希望を与えられました。

「性」は神様が与えてくれた、自分を彩る大切なギフトだと思います。また人権を考えていく中で、まずは「目の前にいるその人」に心を向け繋がっていくこと、その大切さを神様から教えてもらいました。そのことを胸に、一人ひとりが与えられた「自分の性」をもっと大切にできるせかいになることを心から祈ります。



学生活動報告

■ タイ・ワークキャンプ 8月8日(木)～8月15日(木)

キリスト教思想・文化コース2年 古川 陽南子

好善社というキリスト教の団体が主催するタイでのワークキャンプに、今回はじめて参加しました。このキャンプの目的は現地のハンセン病の方や療養所を支援し、参加者がハンセン病への理解を深めることにあります。私が大学で所属する宗教総部でもハンセン病問題を扱う機会があり、ハンセン病に関する知識をもっと深めたいと思ったことが参加理由です。ワークの内容としてはペンキ塗りやタイル貼り、土運び、草むしりなど、単純で負担の大きくないものがほとんどでした。タイでの慣れない生活環境のために私が自分のことでいっぱいになってしまった時には、ラオスやオーストラリアからの参加者が声掛けを絶やさず、笑顔で励ましてくれました。プットフォンの

村では患者さんに直接会ってお話を伺うことができました。今まで差別に苦しんできたことを感じさせないような笑顔の素敵な方でした。仏教国であるタイでは、人に会う際に胸の前で合掌をします。合掌には「右のたなごころを仏、左のたなごころを自分とし、それらを合わせる」といった意味があるといいますが、お会いした患者さんが指の失われた両手で作ってくれた合掌はとても尊いものを感じられました。



プットフォン村の中心部の教会

キリスト教思想・文化コース3年 芦北 聖柊

この夏、好善社によって企画されたタイのワークキャンプに参加しました。そこで学んだことは、「人との関わり」です。私はゼミの研究で「キリスト教とハンセン病」というテーマに取り組んでいます。これまではタイのハンセン病については調べるだけでしたが、今回のキャンプでは現地の状況を知り、元患者さんと会ってお話を伺うという貴重な経験をすることができました。ハンセン病は治っても継続的に体のケアを必要とし、ケアを怠ると体が知らないうちに變形し、より生活が困難になる場合があります。タイは日本と比べ医療も衛生環境も整っていないため、医療現場の看護師や医師の重要性を知る機会にもなりました。ワークキャンプでは、タイルを貼るためのコンクリート作りなどの作業内容は予め伝えられていて各々理解しているた

め、共に働く人たち同士で言葉が必ずしも必要というわけではありませんでした。「言葉が必要ない」とは、笑顔やジェスチャーで現地の方達と通じ合えたということです。共に1つの目標に向かって作業に取り組むことで、心は十分通じ合い、私も自然と自分からコミュニケーションを取ることができました。人と関われることは、こんなにも嬉しいことなのだと思ふことができました。ワークキャンプでした。



芦北さんは真ん中

■ 釜ヶ崎夏祭り 8月13日(火)～8月15日(木)

キリスト教思想・文化コース4年 濱田 紘瑛



8月13日(火)から15日(木)にかけて、私は大阪市西成区の通称「釜ヶ崎」の夏祭りに参加しました。夏祭りは、カレーライス、泉州天ぷら、懐かしい駄菓子屋などの屋台で賑わっていました。私も釜ヶ崎医療連絡会議が出店されていた屋台でチヂミを焼きました。屋台の他にのど自慢大会や相撲大会、盆踊りなどが催され、私は「釜の富士」という四股名で相撲大会に飛び入り参加しました。年齢も背景も全く違う方々と白熱した取り組みを行い、観客の皆さんがそれを囲んで盛り上がるという、人生でなかなか味わうことができない瞬間を経験することができました。

ところで、釜ヶ崎にいる間、全ての人はもう一つの土俵に立たされます。それは肩書きのない人間同士の関わりという土俵です。夏祭りの間、私は年齢も、職業も、立場も、何も聞かれることはありませんでした。だから見知らぬおじさんから「ほい」と突然アイスももらったり、車椅子に乗った知らないおばあちゃんからお使いを頼まれたりします。肩書きも属性もなく、ただひたすら「熱い! 熱い!」と漏らしながらチヂミを焼き、知らないおばあちゃんのお使いに走る。そしてもらったアイスを食べ、相撲をみんなで囲む。釜ヶ崎の夏祭りは、自己を捨て去って他者と生きる場でありました。釜ヶ崎の有り様を私の生き方としていきたいと思ひます。



チヂミを焼く濱田さん

新入生の声

キリスト教伝道者コース1年 石井 千桜

神学部は他学部比べて人数が少ないため、人との繋がりを非常に強く感じます。そのため様々な境遇の先輩や同級生と話す機会が多く、発見と驚きの学生生活を送っています。学問的にはキリスト教を中心に宗教について学ぶとともに、聖書や思想の理解を深めています。神について知っていく中で、私自身について考えることがあります。人はなぜ生きるのか、そして神は現代の私たちに何を語りかけているのか、まだ自分の答えは明確ではありませんが、神学部での学びと出会いによって少しずつ見つけていきたいと思っています。何よりも全力で楽しむ4年間を過ごしたいです。



キリスト教思想・文化コース1年 富永 寛大

神学部に入學してから初めての春学期が終わりました。この春学期では、主にキリスト教に関する基礎的知識について学びました。神学部に入學するまで、キリスト教に触れてきませんでしたが、先生方が基礎的な内容から丁寧に教えてくださっているので楽しく学んでいます。また、神学部ではキリスト教だけでなく、世界の様々な諸宗教についても学んでいます。グローバル化が進み世界中の人々と簡単に繋がることのできる現代において、キリスト教をはじめとする諸宗教を学び、宗教への理解を深めることは大変意義のあることだと感じています。これからの大学生活、より宗教について学びを深め、将来グローバルに活躍できる人材になりたいです。

学生の声 神学部で学ぶ

キリスト教思想・文化コース4年 嶋野 陽菜

Q1. 神学部に入學したきっかけは？

ミュージカルを通してキリスト教に興味を持ち始めました。ミュージカルは西洋からの輸入作品が多いため、登場する人物やストーリーの背景にキリスト教の文化が関わっている作品が多くあります。私は高校生になるまで、日本で暮らして宗教や信仰について意識する機会があまりありませんでした。ですが、キリスト教主義の高校に入學し、キリスト教が多くの国や人々にとって、生活の一部となって顕在化していることを、礼拝や学びの中で知りました。そして、信仰は西洋社会において人間の生き方そのものであると感じたため、キリスト教について専門的に学んでみたいと思い受験を決めました。

Q2. 現在神学部で興味を持って学んでいることは？

「死に憑かれた都」と呼ばれるウィーンの死生観に興味を持ち、ミュージカル『エリザベト』を題材に研究を進めています。この作品には、「死、それは偉大なる愛」というテーマが設定されているのですが、日本で生まれ育った私には「死」と「愛」は一見正反対のように感じます。その矛盾する二つの要素の繋がりについて、作品の背景にある19世紀ウィーンの死生観とキリスト教文化という二つの視点から分析をしています。

Q3. 将来の夢や目標は何ですか？

現在はミュージカルの制作に興味を持っています。キリスト教の歴史や信仰のあり方を役者が知ることで演技にもその知識が表れてくるはずなので、神学部での学びを生かし、輸入作品の制作やお稽古の場でキリスト教の歴史や文化、思想などの指導をしたいと考えています。ただ演劇界にキリスト教の指導に特化した専門的な職はないので、どのようにこの目標にアプローチしていくのか模索中です。

Q4. 神学部生、神学部入学を目指している受験生に対してメッセージをお願いします。

学部生、受験生の皆さんに共通してお伝えしたいことは、素直でいて欲しいということです。神学部にはクリスチャンではない学生、クリスチャンであっても様々な信仰を持った学生が集まるため、新しい価値観に出会うことも少なくありません。しかし、「この人は自分とは違っている」と壁を作ってしまうのではなく、視野を広げて、様々な価値観を素直に自分の中に取り込んで欲しいと願っています。また、受験生の皆さんは進路の選択に迷い、勉強が辛くなってしまうこともあるかもしれませんが、心が弱ってしまった時に私自身が大切にしていることは、自分の弱さを認め、素直に友人や先生方に頼ることです。皆さんが辛い時には誰かに頼り、励まし合いながら受験を乗り越えられるよう祈っています。共に支え合い、高め合える仲間になれることを楽しみに待っています！

秋季学術講演会「非暴力と非戦を求めて ～新たな戦争と暴力の時代に抗して～」

千葉 眞 氏 (国際基督教大学名誉教授)

2024年10月24日 於: 関学会館レセプションホール 報告者: 小田部 進一 教授

10月24日(木)に千葉眞氏(国際基督教大学名誉教授)をお迎えし、秋季学術講演会が開催されました。

過去30年ほど私たちは新たな戦争と暴力の時代を迎えています。この時代にあって、内村鑑三、M・L・キング牧師、チャールズ・テイラーから平和についての考え方を学び直したいと思います。

内村は、日清戦争の勝利に多くの人々の目がくらんでいる現実の中で、戦争は人を殺す「大罪悪」と認識し、非戦の論理を導き出します。内村にとって、非戦論こそキリスト教の真質を見きわめる試金石であり、そこに責任倫理的な「リアリズム」と心情倫理的な「証し」の双方が保持されています。

キング牧師は、イスラーム、ヒンズー教、仏教、儒教、ユダヤ教、キリスト教に共通する普遍的なアガペー



(愛)に依拠し、それを諸個人間の関係の倫理的規範にとどめず、強力で効果的な社会の力であることを洞察しています。独立宣言や連邦憲法などの

デモクラシーと立憲主義にも依拠することで、公民権運動は実効性のある市民運動となることができました。

テイラーもまた、宗教・エスニシティ・地縁・血縁の境界線を越えて新しい関係を創出するキリスト教の概念であるアガペー(愛)に着目しています。そこに宗教的暴力を服するだけでなく、憎悪と暴力を反転させ、その連鎖と悪循環を断ち切る人間の内面における変革(回心)を確認し、それが正義を求める諸活動と結びつき、世俗主義社会の「縁の下の力持ち」となってきたのではないのでしょうか。そのような洞察は、ポスト世俗と宗教の関係を新しく展望するものとなるでしょう。

現在の日本政府は、ハードパワーの政治(核共有、防衛費増額など)の追求に固執しています。しかし、日本の世界的役割において、平和外交、憲法9条の活用、道義と理念、経済力の平和使用、文化の力などソフトパワーの政治を追究すべきであり、戦後憲法の「平和とデモクラシー」へのパラダイム転換が急務であると考えます。



from the Classroom

Theology in Dialogue

Christian Morimoto Hermansen 教授

この授業は関西学院大学神学部が開講し、NCC宗教研究所のISJP(Interreligious Studies in Japan Program)の一環として提供している科目です。今年度のISJPの参加者はスイス人1名、ドイツ人1名、スウェーデン人2名です。この4名と神学部の学生1名の5人で授業をしています。年齢は20代から50代まで。全員が神学か宗教哲学を学んでいます。授業は共通言語の英語で実施しています。できる限りお互いを理解したいと思っており、この思いは「Theology in Dialogue」にも生かされています。この授業は、参加者が自分の神学を振り返り、深める機会となっています。外国人受講生はこれまで自身が学んできた神学と日本のキリスト教と神学、文化、言語、そして他宗教との出会いから学び、日本人受講生は外国人の「はて？」から学びます。例えば「アガペー」の適切な訳語は「愛」ではなく「大切にする」であるという本田哲郎神父の議論や、哲学者であり禅僧でもある阿部正雄と神学者たちとの「空になる神様(The Emptying God)」をめぐる議論などを教室で熱心に論じています。フィールド・スタディも会話が弾む理由のひとつです。今年も高野山で宿坊に泊まり、住職と対話しました。釜ヶ崎では、福音に生きることが求められていると感じ、教会とは何かを考え直すきっかけになりました。



高野山 奥の院参道にて

ユースキャンプ報告

井上 智 助教



第41回関学ユースキャンプが8月6日(火)から8日(木)にかけて関西学院千刈キャンプを会場に講師には山口義人先生(大阪城北教会)をお迎えしもたれました。参加者11名、スタッフ10名(学生スタッフ2名含む)、合計21名で実施いたしました。スタッフ、関係各位のご協力のもと無事に終えることができました。

キャンプ主題は「出口あるんや!!一緒にいたんや!!」。山口義人先生は今までの人生を振り返りつつ、試練を乗り越え、どのような経緯で牧師となったのか赤裸々に語っていただきました。「出口は別な場所にあるのではなく、今の場所の先にあること」を参加者に向かって話し、神さまが共にいてくださると力強く語られました。

キャンプの最終日は千刈キャンプから関西学院大学上ヶ原キャンパスへと場所を移しました。神学部礼拝堂で、キャンプ全体を通し参加者一人ひとりの言葉を受け止め、「悩み」、「思い」を聞きあい、豊かな時を過ごすことができました。参加者のこれからの歩みが神さまに祝されたものとなり、願わくは再会することができるようにお祈りいたします。

2025年度 神学部・神学研究科入学試験ご案内

神学部・神学研究科入試日程

※各入試の最新情報及び詳細については以下のWEBサイトからご確認ください。
<https://www.kwansei.ac.jp/admissions/>

<お問い合わせ先> ■関西学院大学神学部 Tel.0798-54-6200 ■関西学院大学入学センター Tel.0798-54-6135

■神学部

		出願期間	試験日
一般入試	全学部日程	<インターネット出願> 2025年 1月 4日(土)~1月22日(水) ~23時まで	2月 1日(土) 2月 2日(日)
	学部個別日程		2月 4日(火) 2月 7日(金)
	共通テスト 併用日程(英語)	<出願書類郵送> 2025年 1月 4日(土)~1月22日(水) [当日消印有効]	2月 7日(金)
大学入学共通テストを利用する入試	1月出願	<インターネット出願> 2025年 1月 4日(土)~1月17日(金) ~23時まで <出願書類郵送> 2025年 1月 4日(土)~1月17日(金) [当日消印有効]	【大学入学 共通テスト】 1月18日(土) 1月19日(日)
	3月出願	<インターネット出願> 2025年 2月15日(土)~3月10日(月) ~15時まで <出願書類郵送> 2025年 2月15日(土)~3月10日(月) [当日消印有効]	

■神学研究科 <博士課程前期課程>

		出願期間	試験日
第2次	一般	2月10日(月)	2月28日(金)
	社会人	2月17日(月)	
	外国人留学生	(期間内必着)	

<博士課程後期課程>

		出願期間	試験日
一般		2月10日(月)	2月28日(金)
		2月17日(月)	3月 1日(土)
外国人留学生		(期間内必着)	



W.J.エイブラハム 著、加納 和寛／赤松 真希 訳
『メソジスト入門 -ウェスレーから現代まで-』

(教文館、2024年8月)



ジョン・ウェスレーの現代的解釈、現在までのメソジストの歴史、アメリカとイギリスのメソジスト教会の違い、メソジストの教理の変遷、20世紀以降の教会衰退の現実、今世紀の新しい信仰運動、メソジストの未来予想図などを紹介。ホーリネス・ペンテコステ運動とメソジストの関係や、現在進行中のアメリカ合同メソジスト教会における大分裂についても訳者解説で取りあげています。

関西学院大学神学部 第26回 キリスト教教育研究集会のご案内



関西学院大学神学部では、かねてから学校教育におけるキリスト教主義教育の重要性を認識して、その中心的役割を担う聖書科教師の育成に努めてまいりました。この研究集会は、今日の聖書科教師が直面している様々な課題を明確に自覚し、その解決の方法を具体的に作り上げていくことを目標としています。下記の要領で、第26回の研究集会を開催いたします。キリスト教教育を担当なさる多くの方が参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

神学部補佐室 Tel.0798-54-6207

- ◆講演-----『ミッションスクールからSchool with Missionへ』
- ◆講師----- 中道 基夫 氏(関西学院大学神学部)
- ◆現状報告---- 田中 耕大 氏(平和学園アレセア湘南中学高等学校)
- ◆とき----- 2024年12月27日(金) 12:30~18:00
- ◆ところ----- 関西学院中学部 中学部会館
- ◆申し込み締切日-- 12月13日(金) 16時まで

関西学院大学神学部 第59回 神学セミナーのご案内



2014年度に「ディアコニア・プログラム」が開始されてから10年が経過しました。内外の多くの方々に支えられながら、同プログラムはこれまで12名の修了者を社会に送り出してきました。今回のセミナーでは、現在のディアコニアの歩みとともに、未来に向けた新たな展望を共に考えることを目指したいと思います。

- ◆主題---「ディアコニアでつながる未来」
- ◆日時--- 2025年2月17日(月)9:30-16:30
- ◆場所--- 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスF号館
(対面・オンライン併用)

招待講演:上内 鏡子 氏(神戸イエス団教会牧師、
社会福祉法人イエス団賀川記念館天国屋カフェ事業担当)
主題講演:森本 典子 氏(神学部専任講師)

MSセミナー2024 開催延期



「MSセミナー2024」は、台風10号の接近予報とともに中止・延期となりました。参加予定の教会担任教師のそれぞれの教会での責任を考えると、早いタイミングではありましたが、やむを得ないと判断しました。来年には合同での開催を予定しており、「MSセミナー2024/2025」となろうかと思っております。参加者が増えることで、同窓の交わりの場としてもいっそう賑やかなセミナーになるものと期待しております。

MSセミナー企画・運営委員会委員長・神学部教授 土井 健司

2024年度春学期(4月~9月)
神学部日誌

- 4/ 1 大学入学式・大学院入学式
- 4/ 8 春学期授業開始(学部・大学院)
始業礼拝・始業講演(加納 和寛 教授)
「聖霊とは何か? -現代キリスト教の視点から-」
- 4/10 神学部イースター礼拝(加納 和寛 教授)
- 4/17 GPA制度による成績優秀者顕彰礼拝・
山内奨学金授与礼拝
- 4/24 神学研究会(小田部 進一 教授)
「ルター訳『新約聖書』(1530)と木版画
-マタイ福音書記者肖像画の特徴を探る-」
- 5/15 神学部チャペルコンサート
「宗教改革期の賛美歌と音楽~ルターの賛美歌集500年~」
- 5/20 神学部ペンテコステ礼拝(森本 典子 専任講師)
- 5/21 神学部・神学研究科人権研修会
(藤井 航 氏 関西学院高等部非常勤講師)
「自分の“性”を考える~神様が教えてくれたこと~」
- 5/22 神学研究会『神学研究』第71号合評会
発題:樂満 大樹 氏 評者:東 よしみ 准教授
発題:安田 典子 氏 評者:加納 和寛 教授
- 6/ 5 神学部・神学研究科学術奨励基金各種奨学金授与礼拝
- 6/26 神学研究会(加納 和寛 教授)
「神学用語としての『宗教』とその理解-比較と考察-」
- 7/19 春学期授業終了(学部・大学院)
- 7/24 神学研究会(井上 智 助教)
「R.J.Revellの研究の妥当性について
-特に『』に注目して-」
- 7/24 修士論文中間発表(大学院博士課程前期課程)
- 7/24~31 春学期定期試験
- 8/3・4 オープンキャンパス
模擬授業
「神の『愛』と恋愛の『愛』」(岩野 祐介 教授)
「古代地中海世界を歩こう-ギリシャ編・ローマ編-」
(浅野 淳博 教授)
神学部独自プログラム
「活版印刷術と宗教改革が出会って進化した聖書
-大学図書館の貴重書を見てみよう!-」
(小田部 進一 教授)
「インフルエンサーイエス」(森本 典子 専任講師)
- 8/6~8 第41回関学ユースキャンプ
- 8/6~9/19 夏季休業
- 9/ 2 教育懇談会
- 9/17 春学期大学卒業式・大学院学位記授与式
- 9/20 秋学期授業開始(学部・大学院)
- 9/21 神学基礎テスト